

立冬

2018. 11. 5

6年生に、学芸会の見どころを聞きました。

涼しい日が多くなり、休み時間に外で遊ぶのにちょうどいいです。朝晩は寒いくらいですね。私は、朝、家を出てくるときに「やっぱり寒いから、コートを着よう。」と思ってしまいます。もっと寒くなったらどうしたらいいのだろうと心配になります。暗くなるのも早いです。先週、1年制から4年生までのクラスに行き、夕焼けチャイムは何時に鳴るかを聞くと、「6時」と答えた人が多くてびっくりしました。6時というのは4月から9月までです。10月から3月までは、4時半になります。もう11月ですから、間違えないようにしましょう。11月と12月は暗くなるのが1年の中で一番早いです。夕焼けチャイムが鳴った時に公園などで遊んでいたら、遊びをやめて家に帰りましょう。習いごとのある人は、おそくなってしまうこともあると思います。そういう時には、明るい道を通り、寄り道をしないで帰りましょう。おうちの人に迎えにきてもらうのもいいと思います。

さて、明後日、11月7日は「立冬」と言います。こう書きます。(見せる)「立」には、新しい季節になるという意味があるので、「冬が始まりますよ」という日になります。木枯らし1号が吹くのもこの頃です。木枯らしというのは、太平洋側で吹く秒速8メートル以上の北寄りの強い風のことです。「たき火」という子供の歌にも歌詞として出てきます。手袋やマフラーもそろそろ用意しなくてはいけないなと思います。

本格的な冬になるのは、まだまだ先ですが、冬といえば雪・・・ということで、今日は雪に関係する昔話をします。

むかし、むかし、冬が来て寒くなると、雪のかわりにお砂糖や小麦粉の降ってくる村がありました。その村では、初めの日に小麦粉が降ってくると、その次の日にはお砂糖がたくさん降ってくるのです。お砂糖と小麦粉がかわりばんこに空から降ってくる、そんな日が十日も十五日も続きます。「やあ、今年も降ってきたぞ。白い粉が。」小麦粉の白い粉が降り出すと、村の人たちは桶や水瓶やそのほかいろいろな入れ物を出してきて、せっせと粉を集めます。そして、それを袋に集めて大きな蔵にいっぱい詰め込みます。こうして1年分のお粗糖と小麦粉を集めてしまうと、村の人は1年間遊んで暮らせばいいのです。この村の人たちは、他の村のように田んぼや畑を耕して米や麦や豆や野菜をつくろうとしません。お腹がすいたら、おだんごや甘いお菓子をつくって食べればいいからです。村の人はありがたいことだと思っていたのですが、そのうちに、前の年のお砂糖や小麦粉も余ってしまうようになり、ありがたい、という気持ちを忘れてしまいました。子どもたちはお砂糖や小麦粉を丸めて投げて遊んだり、池にお砂糖を流し込んで遊んだりしました。

しかし、ある年、お砂糖や小麦粉ではなく、普通の雪が降ってきました。「わーい、冷たい!」「本物の雪だ。」と村の人は喜びました。でも、毎日、雪ばかりでお砂糖や小麦粉が降ってこなくなったので、すっかり困ってしまいました。その年だけでなく、次の年もその次の年もお砂糖や小麦粉は降りませんでしたとさ。おしまい。

学芸会の練習、頑張ってくださいね。